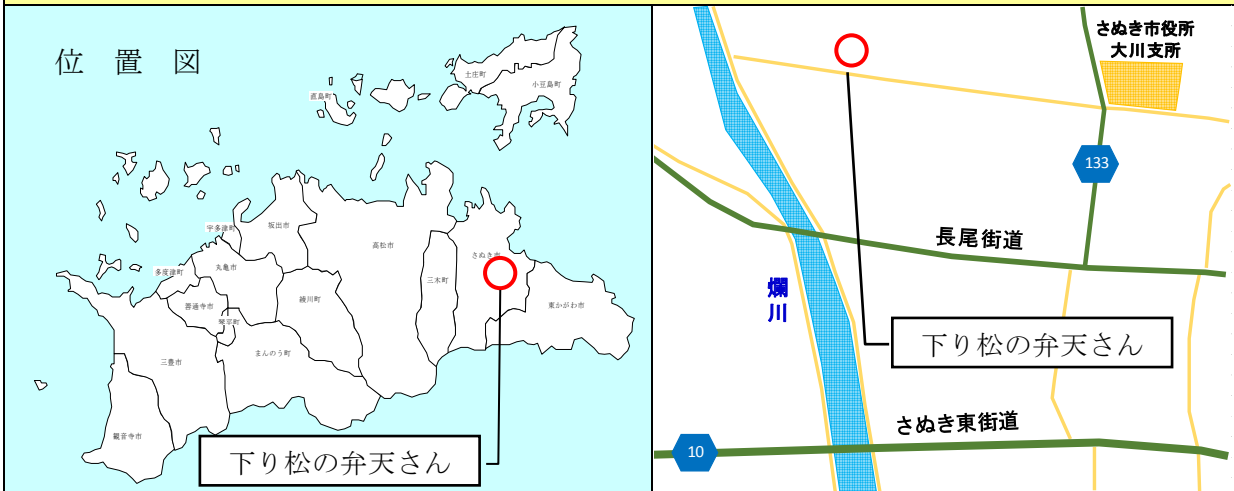


## 下り松の弁天さん（さがりまつのべんてんさん）



さがり市大川町富田中に「下り松の弁天さん」と呼ばれる神様があります。

中世の頃、「四方荒地、沼多く葎茂り、鶴、雁が生息し、その数知れず、また、周辺に松の大樹が地を覆い林となす。」と言われたこの地に、<sup>しもふさ</sup>下総の国より始祖が訪れ弁財天を祀り、寺を建てたと伝えられています。その後、松平頼重公により寛文七年（1667年）に領内各地に点在する神社を「寄せ宮」されましたが、この弁財天宮は富田中村の鎮守として「残し宮」とされ、現在も「弁天様」として親しまれています。

社殿裏の大きな木の根元には、一年を通して清らかで澄んだ水が<sup>こんこん</sup>滾々と湧き出る出水があります。その出水は、短辺 3m、長辺 4m の方形で、深さは 1.4m の大きさで、下流の農地の大切な水源となっています。

また、その出水の水を<sup>いぼ</sup>疣につけ、<sup>いぼ</sup>疣が取れた人は、自分の年の数だけ小豆をお供えするという民間信仰があり、そのことから「いぼ神さん」とも呼ばれています。今でも社殿には小豆が供えられています。



出水及び社殿の全景



滾々と湧き出る出水